

令和2年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	8003	領域略称名	ソフトロボット学
研究領域名	ソフトロボット学の創成：機電・物質・生体情報の有機的融合		
領域代表者名 (所属等)	鈴木 康一 (東京工業大学・工学院・教授)		

(評価結果)

A－（研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる）

(評価結果の所見)

本研究領域は、従来の硬い素材や機構でできたロボットでは実現できなかった機能を、柔らかい素材や機構により実現し、しなやかで自立する人工物に関する知の体系であるソフトロボット学という新たな学術の潮流を創成する意欲的な研究である。機械工学、電気・電子工学、情報科学に加え、物質科学、生物学が連携した異分野融合研究は、概ね順調に進んでおり、論文発表及びハードウェア開発など個々の成果が上がっていることや、研究領域として、公募研究のマッチングや若手研究者の育成、対外発信、連携活動を積極的に行っている点は評価できる。

一方、ウェットな系を用いた研究など、研究組織によっては全体計画の中での位置づけがあいまいである。また、研究組織間の連携が希薄な部分があり、領域全体としてどのようにまとめていくのか方向性が不明瞭である。ソフトロボット学の構築において、どこまでできていて、何ができていないのか、そのために今後何が必要なのかを具体的に示し、研究領域内で共有・連携しながら進めていくことが望まれる。